

事務事業評価シート(総括表)

事務事業	136	環境に配慮した道づくり					
章	5	身近な環境に配慮した、地球にやさしいまち					
大項目	02	快適環境の保全と創出					
施策	02	環境保全型まちづくり					
事業内容							
目的	環境に配慮した舗装を実施することでヒートアイランド抑制効果を高めるとともに、道路施設において、資源の有効活用を進めます。						
対象・手段	対象：区道 手段： 遮熱透水性舗装（ ）の実施 防護柵に間伐材を活用 遮熱透水性舗装とは、直射日光のうち、路面温度を上昇させる原因である赤外線を反射する塗料を路面に塗布した舗装をいいます。						
成果（事業が意図する成果）							
温度低減効果がある舗装の実施や既存資源の有効利用を図ることで、身近なところから、環境に配慮したまちづくりを進めます。							
事業成果指標							
指標名	定義	目標水準					
遮熱透水性舗装の施工面積	遮熱透水性舗装の面積	( 毎 ) 年度に ( 1,300㎡ ) の水準達成					
木製防護柵の施工延長	木製防護柵の延長	( 毎 ) 年度に ( 100m ) の水準達成					
		( ) 年度に ( ) の水準達成					
成果の達成状況							
	単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考	
事業 成果 指標	目標値 1	㎡	0.00	1,300.00	1,300.00	1,300.00	
	実績 1	㎡	0.00	1,229.00	1,370.00	1,271.00	
	= /	%	0.00	94.54	105.38	97.77	
	目標値 2	m	0.00	100.00	100.00	100.00	
	実績 2	m	0.00	110.70	161.40	155.50	
	= /	%	0.00	110.70	161.40	155.50	
	目標値 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成18年度	遮熱透水性舗装 1,370 ㎡ 木製防護柵 161.4 m						
平成19年度	遮熱透水性舗装 1,271 ㎡ 木製防護柵 155.5 m						

部名称		みどり土木部		課名称		道路課	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	0	37,434	32,448	24,398	
	人件費	千円	0	0	4,140	4,130	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	0	37,434	36,588	28,528	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	0	37,434	36,588	28,528	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	0	37,434	36,588	28,528	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	0.00	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.00	0.00	0.50	0.50	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
<b>事業に関する検討課題</b>							
<p>遮熱透水性舗装については、ヒートアイランド対策に効果がある環境配慮型舗装として、東京都土木技術研究所等の協力の下導入し、路面温度低減効果を検証しました。今後はより有効に機能する場所の選定基準等についても検証して行くことが必要です。さらに、初期に施工した箇所についての機能の劣化などを調査していく必要があります。</p> <p>木製防護柵については、経年変化による劣化状況を経過観察することと、設置条件を整理することが必要です。</p>							
評価基準に基づく評価と理由	達成度	3	遮熱性舗装面積、木製防護柵設置延長ともに、計画通りの施工数量を達成しました。				
	実施の成果	2	夏季の舗装表面温度が通常舗装に比べて10 程度下がったことが確認され、温度低減による歩行者等への身体的な負担の軽減等、成果が出てきています。また木製防護柵は道路景観の向上だけでなく木の温もりが感じられることから、地域住民の好評を得ています。				
	効率性	3	事業対象である区道は区民の生活道路が主であるため、事業実施による成果を区民が享受しやすいことから、事業の効率性は高いと考えます。				
	行政の関与	3	環境に配慮した施設づくりは、幅広い主体が取り組む問題です。その中でも、広く公共の用に供する区道は、区内全域に対して面積の割合が比較的多いことから、率先して取り組むことが必要です。				
	妥当性	3	ヒートアイランド抑制効果のある遮熱透水性舗装の面積を増やしていくことは、環境保全型まちづくりの実現に向けた手法の一つとして妥当です。				
	施策寄与度	2	遮熱透水性舗装はヒートアイランド現象の緩和に寄与します。また間伐材を防護柵として使用することにより、資源の有効利用に貢献しています。これら取り組みは環境保全型まちづくりの施策に大きく寄与しています。				
総合評価	平成19年度は施工数量を計画通りに実施できたことから評価をBとしました。また過去3年間の実績は遮熱透水性舗装と木製防護柵の両者とも予定以上の施工数量を達成したことから、評価をBとします。これからも新たな工法や材料を取り入れて環境に配慮した道路を造っていくことが必要です。この事業は道路の環境対策として有効であり、また地域に身近な道路を施工するので、区民が直に体感できる事業効果の高い施策であると考えます。						B
							過年度評価 18年度 B 17年度 B 16年度 15年度
改革方針							方向性
	この事業は、第一次実行計画「69 環境に配慮した道づくり」で引き続き取り組んでいきます。今後も関係機関と連携し、遮熱性舗装の耐久性等を検証するとともに、従来より進めている多摩の間伐材の利用を促進するだけでなく伊那市の間伐材の有効活用についても検討していきます。						1  現状のまま継続